

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 10 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20255007

研究課題名（和文） 日本列島と大陸との人の交流に関する人類学的研究

研究課題名（英文） Anthropological study on the history of migration between the Japanese Archipelago and Asian continent.

研究代表者

中橋 孝博 (NAKHASHI TAKAHIRO)

九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授

研究者番号：20108723

研究分野：自然人類学

科研費の分科・細目：人類学・自然人類学

キーワード：日本人の起源 弥生人 縄文人 渡来人

## 1. 研究計画の概要

日本人の形成史解明には、更新世から現在に至る間の大陸や周辺域との人の交流史の解明が不可欠である。特に懸案となっている渡来系弥生人や縄文人の源郷問題を解決することを目的として、以下の東アジア各地域の人類学的調査(形態、遺伝子、考古、同位体分析)を実施する。

(1)中国：弥生文化の支柱となった水稻農耕文化の伝播経路として関連分野から注目されている江蘇省～山東半島南岸域の古人骨調査、及び、青銅器文化の伝播と関連して注目される中国東北部の先史人類に関する調査(吉林大学所蔵の古人骨調査)を実施し、弥生時代の日本への渡来に関係した大陸の人と文化の動態を明らかにする。

(2)東アジア東北部(ロシア・モンゴル)：ロシア沿海州・モンゴル東部の新石器～鉄器時代遺跡の発掘調査、及び両国の各研究機関所蔵人骨の調査によって、大陸北方と日本列島との人の交流、特にシベリア東部集団と縄文人との関係を明らかにする。

(3)東アジア南部

①先島諸島：資料空白域となっている先島諸島の先史時代遺跡の発掘調査を通して、日本列島とアジア南部との人の交流を明らかにする。

②台湾：台湾の先史時代人骨、及び土着原住民集団の資料調査によって、日本の更新世に遡る時期からの人の交流を追求する。

## 2. 研究の進捗状況

(1)中国：山東半島南岸に位置する北辛史跡出土の新石器時代人骨(大汶口文化期)の整理、復元作業を実施し、平成 22 年度までにおよそ 120 体分の計測、観察データの採取を終えた(これらに関する分析結果について 2011 年秋に研

究発表会を実施予定)。また、吉林大学所蔵の中国東北地域の人骨(新石器時代～漢代人骨)の調査を実施して当該域の人類学的情報の充実に図っている(2011 年まで調査実施予定)。

(2)ロシア極東歴史・考古・民族学研究所、及びモンゴル考古学研究所との共同研究を実施し、これまでのところもモンゴル東部ダーラム遺跡から青銅器時代人骨を新たに得た(2011 年度まで引き続き調査継続)。また、ロシア・モンゴルの各研究機関所蔵の新石器時代～青銅器時代の人骨調査を実施した。

(3)資料空白域となっている先島諸島の宮古島浦底遺跡の発掘調査を実施し、1 体の時期不明の埋蔵人骨を得たので、現在、年代測定を実施中である。また、沖縄県教育委員会の調査による石垣島白保竿根田原遺跡出土の人骨片に関し、年代測定を実施して、更新世(約 2 万年前)に遡る人骨であることを明らかにした。

また、台湾大学医学部所蔵の先史時代及び近現代の原住民人骨に関する調査を実施し、その結果を学会誌に報告した。さらに、縄文人の起源問題に関連する研究として愛媛県上黒岩縄文早期人骨の分析を実施し、その特異な形質を明らかにした。また、弥生時代における渡来人と土着縄文人との関係や渡来系弥生人の拡散に関するシミュレーション分析を行ない、学会誌に報告した。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

主要な研究目標としていた中国、台湾での先史人骨調査が順調に進み、成果の一部は既に学会誌等に発表した。さらに 2011 年度には中国、台湾の共同研究者を招聘してこれまでの成果を発表し討議する計画である。また、ロシア沿

海州、先島での発掘では残念ながら先史時代人骨の発見には至っていないが、ロシアに代わって実施したモンゴル東部・ダーラム遺跡発掘調査によって新たに青銅器時代人骨を得ることができた。また、先島では石垣島の白保竿根田原洞穴から出土した人骨の年代測定に貢献することができた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1)最終年度になる2011年度には、大陸北方域の先史時代人骨に関する情報収集のため引き続き中国・吉林大学所蔵人骨の調査のほか、先史時代人骨に関する情報が希薄なモンゴル東部域において発掘調査を実施する。

(2)アジア南方からの人的影響を明らかにすることを目的として、引き続き沖縄・先島諸島(日本最南端の波照間島の発掘を予定)において発掘調査を実施する計画である。

(3)中国・山東半島南岸の新石器時代人骨を主対象とした研究発表会を、中国の研究者を招聘したかたちで実施する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計57件)

- ①K.Okazaki & T.Nakahashi: Developmental variation in facial forms in Japan. *Anthropological Science*(査読有), 119: 49-66. 2011.
- ②R.Nakagawa, N.Doji, M.Yoneda(他11名、2番目と14番目): Pleistocene human remains from Shiraho-Saonetabaru Cave on Ishigaki Island, Okinawa, Japan, and their radiocarbon dating. *Anthropological Science* (査読有), 118: 173-183, 2010.
- ③中橋孝博・岡崎健治: 縄文早期人骨. 国立歴史民俗博物館研究報告(査読有), 154: 343-388. 2009
- ④中橋孝博: 北部九州の縄文～弥生移行期に関する人類学的考察. *Anthropological Science (J-series)*(査読有), 116: 131-143, 2008
- ⑤土肥直美、竹中正巳、中橋孝博、蔡錫圭: 台湾大学医学院体質人類学研究室所蔵の人骨. *Anthropological Science (J-series)*(査読無), 116: 176-181, 2008

[学会発表](計35件)

- ①宮本一夫・小畑弘己: モンゴル国ヘンティール県ダーラム板石墓の発掘調査. 第12回北アジア調査研究報告会、札幌学院大学、2011年3月6日.
- ②米田穰・土肥直美・片桐千亜紀: 白保竿根田原洞穴遺跡から見つかった更新世人骨とその人類学的意義. 国際シンポジウム「後期旧石器時代のシベリアと日本」、慶應義塾大学、2010年11月28日.

③中橋孝博: 中国の古人骨調査から. 骨講座: 骨が語る人類のすがた. 石垣市図書館、2010年7月4日

④中橋孝博・飯塚勝: 弥生時代の幕開け—渡来系弥生人はどのようにひろがったのか. シンポジウム「更新世から縄文・弥生期にかけての日本人の変遷」、国立科学博物館、2010年2月20日

⑤米田穰: Dietary reconstruction of prehistoric Jomon and Yayoi people of Japan. The 35<sup>th</sup> Xiangshan Science Conference, 北京、2009年5月21日

[図書](計26件)

- ①中橋孝博: 弥生人—人類学から見たその地域相. 青木書店、pp.448-469, 2011
- ②宮本一夫: 縄文文化と東アジア. 同成社(縄文時代の考古学1)、pp.127-140, 2010
- ③甲元眞行: 東アジア先史学・考古学論究. 同成社、p.467, 2009
- ④篠田謙一: 縄文人骨のミトコンドリアDNA分析. 同成社(縄文時代の考古学10)、pp. 52-62, 2008
- ⑤中橋孝博: 中国丁公遺跡出土的龍山文化人骨. 科学出版社、pp.187-199, 2008

[その他]

ホームページ

<http://www.geocities.jp/nakahgsc/index.html>